

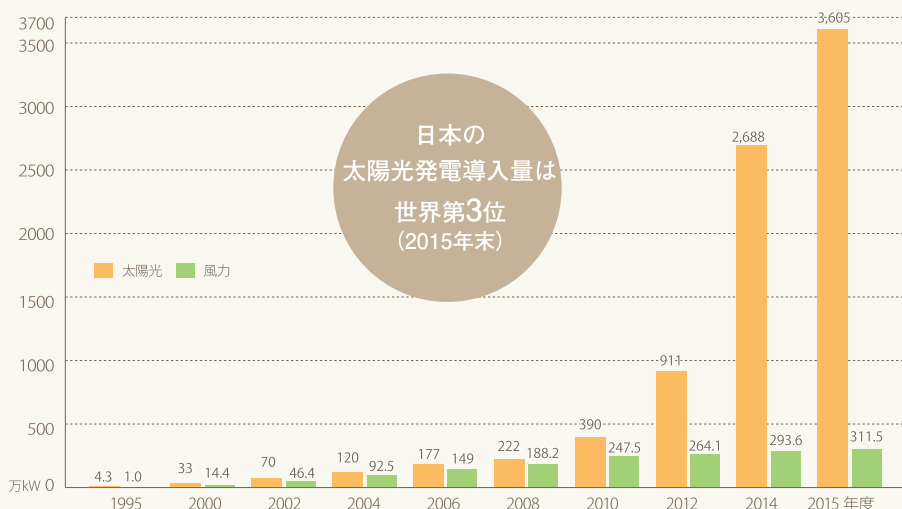
再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組んでいます。

多様な電源の一つとして再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組んでいます。

再生可能エネルギーは純国産エネルギーであるとともに、発電時のCO₂排出を抑制できるメリットがあります。当社は、水力発電をはじめメガソーラー発電*、風力発電、木質チップを利用したバイオマス混焼発電など、再生可能エネルギーの導入にグループをあげて積極的に取り組んでいます。

*1,000kW (=1MW:メガワット) 以上の大規模太陽光発電のことを表します。

日本の太陽光・風力発電導入量(設備容量)の推移



出典:資源エネルギー庁「エネルギー白書2017」、日本原子力文化財団「原子力・エネルギー図面集」より作成

当社の取り組み状況

風力発電所

ウインドパーク笠取

(株シーテック
(三重県津市・伊賀市)
最大出力 38,000kW
(2,000kW×19基)



ウインドパーク美里

(株シーテック
(三重県津市)
最大出力 16,000kW
(2,000kW×8基)



青山高原風力発電所・ 新青山高原風力発電所

((株)青山高原ウインドファーム
(三重県津市・伊賀市)
●青山高原風力発電所
最大出力 15,000kW(750kW×20基)
●新青山高原風力発電所
最大出力 80,000kW(2,000kW×40基)



御前崎風力発電所

(静岡県御前崎市)
最大出力 22,000kW
(2,000kW×11基)



太陽光発電所

メガソーラーしみず

(静岡県静岡市清水区)
最大出力 8,000kW



メガソーラーかわごえ

(三重県三重郡川越町)
最大出力 7,500kW



メガソーラーいいだ



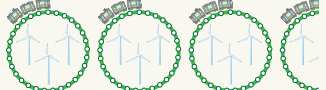
(長野県飯田市)
最大出力 1,000kW



再生可能エネルギーは特徴をふまえて活用していく必要があります。

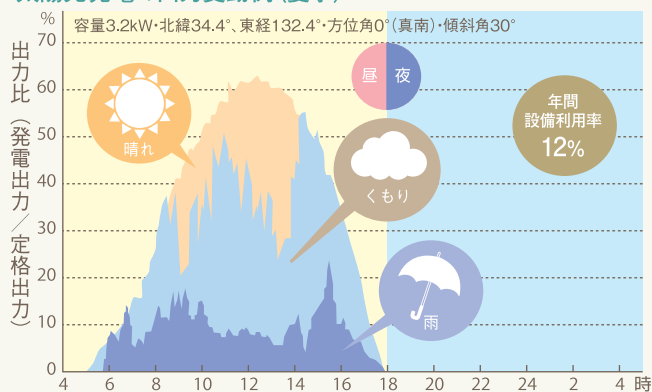
再生可能エネルギーは、枯渇する心配がなくCO₂の排出量を抑制できるなどのメリットがあります。一方、太陽光発電や風力発電などはエネルギー密度が低いこと、天候に大きく影響されること、バックアップのための電源が必要になること、出力変動が大きいこと、電力ネットワークにおける対策が必要になるなどの課題があり、これらの特徴をふまえた取り組みが必要になります。

原子力・太陽光・風力発電による敷地面積の比較 (100万kW相当)

	原子力発電	太陽光発電	風力発電
敷地面積	0.6km ²  100万kW相当	約58km ² →原子力発電の約97倍 =山手線とほぼ同じ面積 	約214km ² →原子力発電の約350倍 =山手線の3.4倍の面積 

出典:経済産業省第1回低炭素電力供給システム研究会資料をもとに作成

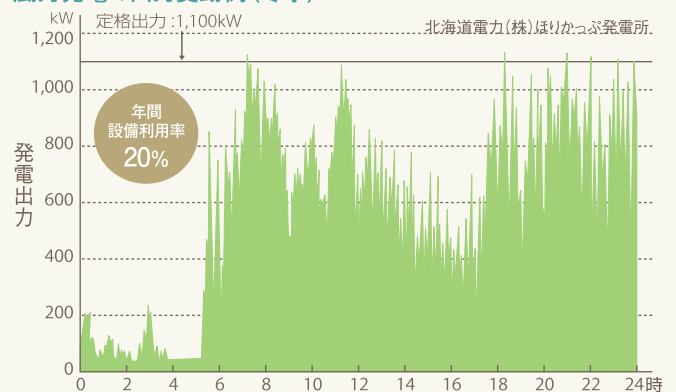
太陽光発電の出力変動例 (夏季)



太陽光発電は時間と天気で発電量が変わる

出典:日本原子力文化財団「原子力・エネルギー図面集」より作成

風力発電の出力変動例 (冬季)



風力発電は風の強さで発電出力が変わる

出典:日本原子力文化財団「原子力・エネルギー図面集」より作成

中部電力エリアにおける太陽光発電の買取契約件数

2012年7月から、太陽光などの再生可能エネルギーを利用して発電した電気を一定の価格と期間で電気事業者が買い取ることを義務付けた「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」がスタート。当社でも、太陽光発電設備を導入したお客さまから発電した電気を買い取る契約数が増え、その累計は2012年度末23万6千件、2013年度末で31万件と1年間で約7万4千件増加しました。

